

## 令和8年度徳島県立総合看護学校 第二看護学科 授業要項

基礎科目 ・ 専門基礎科目 ・ **専門科目**

科目名	看護学概論	学年	1年 2年
担当者名	小川 昌子	時間数	30 時間
クラス		曜日・講時	曜日 講時
授業の目的	看護の基礎となる主要概念を理解し、各看護学に共通する看護行為の基礎となる知識、技術、態度を学び、看護専門職としてのアイデンティティを形成していく基礎的能力を養う。 看護とは何かを考えることで、専門基礎分野での各領域への導入となり、個々の看護観を深めることができる。		
授業計画	1回目 オリエンテーション:看護とは何か 2回目 看護を取り巻く社会の変化 3回目 看護の主要概念①人間・環境 4回目 看護の主要概念②健康・看護 5回目 【GW1】看護理論 6回目 看護理論の探究① 7回目 看護理論の探究② 8回目 看護理論の探究③ 9回目 【GW2】看護理論を事例に適用する 10回目 【GW3】発表準備と資料作成 11回目 【発表会】理論と実践の統合 12回目 看護理論と意思決定支援 13回目 看護制度と安全管理 14回目 看護の広がりと未来 15回目 終講テスト		
教科書及び参考書	<教科書> 茂野香おる他:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1]看護学概論,第18版,医学書院,2026. 城ヶ端初子編:新訂版 実践に活かす看護理論19,株式会社サイオ出版,2021. <参考書> 看護が見えるvol4 看護過程の展開 第1版,メディックメディア,2020. マージョリー・ゴードン著:ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン,照林社,2018. フロレンス・ナイチンゲール著,薄井担子・小玉香津子訳:看護覚え書き,現代社,2017. ヴァージニア・ヘンダーソン 著,湯楨ます・小玉香津子訳:看護の基本となるもの,日本看護協会出版会,2021.		
成績評価の方法	ペーパー試験(60%) 出席等授業態度、グループワーク、課題レポート(40%)		
受講者へのメッセージ	この授業は、看護を学ぶうえでとても大切な基礎科目です。 看護理論を通して、「看護とは何か」「自分はどんな看護をしたいのか」を考えていきます。 グループワークも多く行います。他者の考えを聞き、自分の思いを伝えてみましょう。 ここで学ぶことは、これからの実習や学習につながっていきます。		
履修上の注意	たくさんの内容を30時間に凝縮して講義、演習を行います。予習、復習は必ず行ってください。		

# 令和8年度徳島県立総合看護学校 第二看護学科 授業要項

基礎分野 ・ 専門基礎分野 ・ 専門分野 ・ 統合分野

科目名	小児の成長・発達と家族を支援する看護	学年	1年 ・ <u>2年</u> ・ 3年
担当者名	逢坂 めぐみ	単位数	1単位 30時間
クラス	AB合同	曜日・講時	曜日 講時
授業の目的	小児の疾患（病態生理、検査、治療）症状に対する看護など既習の知識を活用し、健康段階各期の小児の看護過程の展開について学ぶ。		
内容と方法	パワーポイントを用いた講義、GW（看護過程の展開）、外部講師による講義		
授業計画	<p>1回 オリエンテーション 小児とは 小児のアセスメント</p> <p>2回 ゴードンの枠組みを使ったアセスメント</p> <p>3回 ゴードンの枠組みを使ったアセスメント</p> <p>4回 情報収集アセスメントの発表</p> <p>5回 慢性期の看護過程1（慢性期事例）</p> <p>6回 慢性期の看護過程2</p> <p>7回 慢性期の看護過程3、終末期の看護</p> <p>8回 急性期・周手術期の看護過程1（急性期事例）</p> <p>9回 急性期・周手術期の看護過程2（周手術期事例）</p> <p>10回 急性期・周手術期の看護過程3</p> <p>11回 パンフレット、プレパレーション作成</p> <p>12回 パンフレット、プレパレーション作成</p> <p>13回 パンフレット、プレパレーション発表</p> <p>14回 小児DV研修（外部講師による特別講義）</p> <p>15回 終講試験</p>		
教科書及び参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学1 医学書院 2024</li> <li>・ 系統看護学講座 専門分野Ⅱ小児看護学2 医学書院 2024</li> <li>・ 看護がみえるvol.5 対象の理解Ⅰ メディックメディア 2024</li> <li>・ 実習要項 第17期生</li> <li>・ その他 標準看護計画などの参考書</li> </ul>		
成績評価の方法	終講試験、提出物、出席状況及び授業態度等を総合的に判断し評価します		
受講者へのメッセージ	GWを中心に小児領域の看護過程展開を学びます。課題の提出は期限を守ってください。		
履修上の注意	GWで使用するために必要な文献等は、各個人で準備をしてください。GWには個人ワークをした上で臨んでください。		

# 令和8年度徳島県立総合看護学校 第二看護学科 授業要項

基礎分野 ・ 専門基礎分野 **専門分野** 統合分野

科目名	地域で暮らす人々 I	学年	1年 ・ 2年 ・ 3年
担当者名	麻植 晴美	単位数	6/15 単位 12 時間
クラス		曜日・講時	月・火・水曜日 1・2・4講時
授業の目的	地域で生活する多様な個人と家族の価値観や文化・健康観を理解し、生活している人として捉え、暮らしが健康に与える影響を理解する。また、地域の生活環境が健康状態に与える影響を考え、健康を守るための活動が理解できる。		
授業計画	<p>1回 地域の人々を理解すること(麻植)</p> <p>令和4月21日(火)1時間目</p> <p>2回 大藤先生</p> <p>3・4回 地域で生活する人々と健康(フィールドワーク)(麻植)</p> <p>コミュニティーセンターを利用する人々との交流(佐古公民館)</p> <p>令和8年 5月27日(水)1・2時間目</p> <p>5回 地域で生活する人々と健康(フィールドワーク)(麻植)</p> <p>コミュニティーセンターの概要・地域の特徴(佐古公民館)</p> <p>令和8年 5月27日(水)3時間目</p> <p>6・7回 大藤先生</p> <p>8・9回 外部講師</p> <p>10・11・12回 大藤先生</p> <p>13・14回 多職種についての理解(麻植)</p> <p>理学療法士・作業療法士の学生との交流会(健祥会学園)</p> <p>令和9年1月27日(水) 3・4時間目</p> <p>15回 終講試験</p>		
教科書 及び 参考書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 I 医学書院 2026.		
成績評価の 方法	レポート、出席状況		
受講者への メッセージ	学校から出て、地域で暮らす人々や人々を支える活動の基礎を学びます。看護を学ぶ学生としての自覚をもって、準備も行い、積極的に参加してください。		
履修上の 注意	授業やHRでフィールドワークや交流会の説明・準備を行います。情報は必ず得て、施設の方やクラスのメンバーに迷惑をかける行動がないようにしてください。		

# 令和8年度徳島県立総合看護学校 第二看護学科 授業要項

基礎科目 ・ 専門基礎科目 **専門科目** ・ 統合分野

科目名	成人期にある人々	学年	1年 ・ 2年
担当者名	西本 志津	時間数	15 時間
クラス	A組 ・ B組	曜日・講時	講時
授業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成人看護の対象となる成人期の発達段階の特徴を理解する。</li> <li>・ 成人を取り巻く生活や健康を維持するための仕組みについて理解する。</li> <li>・ 成人への看護アプローチ、ヘルスポロポジションと看護について理解する。</li> <li>・ 成人のさまざまな健康レベルや状態に対応した看護について理解する。</li> </ul>		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成人と生活</li> <li>・ 生活と健康</li> <li>・ 成人への看護アプローチの基本</li> <li>・ ヘルスポロポジションと看護</li> <li>・ 健康をおびやかす要因と看護</li> <li>・ 健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護</li> <li>・ 慢性病とともに生きる人を支える看護</li> <li>・ 障害がある人の生活とリハビリテーション</li> <li>・ 人生の最期のときを支える看護</li> <li>・ さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援</li> <li>・ 新たな治療法、先端医療と看護 / まとめ</li> <li>・ 終講試験</li> </ul>		
教科書 及び 参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 成人看護学 1 医学書院		
成績評価の 方法	終講試験、授業内でのレポート、グループワークの参加(発表)、履修した内容出席状況・授業態度(携帯、他事等はしない)等で総合的に評価します。		
受講者への メッセージ	範囲は広く、看護師国家試験にもよく出題されています。 主体的に学習していきましょう。		
履修上の 注意	予習・復習をし授業に臨んで下さい。		

# 令和8年度徳島県立総合看護学校 第二看護学科 授業要項

基礎分野 ・ 専門基礎分野 **専門分野**

科 目 名	高齢者援助論	学 年	1年 ・ <b>2年</b> ・ 3年
担 当 者 名	吉成明美	単 位 数	1単位30 時間 のうち26時間
コ ー ス	<b>A B</b>	曜 日 ・ 講 時	曜日 講時
授 業 の 目 的	<p>老年期の看護過程を学び、入院治療をうける高齢者とその家族の援助方法を習得する。                  高齢者の人生の最終段階から生きることを支える看護について学ぶ。</p>		
授 業 計 画	<p>1回目 高齢者事例の展開例                  2回目 治療を受ける高齢者への看護                  3回目 高齢者のエンドオブライフケア                  4回目 高齢者の生活療養の場における看護                  5回目 事例による看護過程の展開                  6回目 事例による看護過程の展開                  7回目 事例による看護過程の展開                  8回目 事例による看護過程の展開                  9回目 事例による看護過程の展開                  10回目 事例による看護過程の展開                  11回目 事例による看護過程の展開                  12回目 高齢者のリスクマネジメント                  13回目 終講試験</p>		
教科書及び参考書	系統看護学講座 専門 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門 老年看護 病態・疾患論 医学書院 看護が見える VOI.5 対象の理解 メディックメディア		
成績評価の方法	出席状況、学習状況、終講試験		
受講者へのメッセージ	老年看護学実習で看護過程を展開し、対象者にあった看護の援助ができるように学習します。		
履修上の注意	架空の事例からの看護過程の展開です。授業ではじっくりとアセスメントできますが、実習ではこうはいきません。老年看護の考え方ができるように、自ら学ぶ姿勢で臨んでください。		

# 令和8年度徳島県立総合看護学校 第二看護学科 授業要項

基礎分野 専門基礎分野 **専門分野**

科目名	看護過程	学年	1年 ・ 2年 ・ 3年
担当者名	清原 直美	単位数	1単位 30時間
クラス		曜日・講時	曜日 講時
授業の目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護過程の基本となる考え方、看護過程と看護理論の関係が理解できる</li> <li>2 患者さんの反応（人間の反応）が理解できる。</li> <li>3 看護問題を解決するための思考と行動が理解できる。</li> <li>4 看護過程の展開の方法が分かり、紙上事例を用いて、看護過程の展開ができる</li> <li>5 臨床判断の思考過程をについて理解できる</li> </ol>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、看護過程とは、看護過程の構成要素、アセスメントとは</li> <li>2 アセスメント：情報収集・ゴードンの機能的健康パターン・アセスメントツール</li> <li>3 アセスメントの手順</li> <li>4 アセスメントの手順 事例を用いアセスメントする</li> <li>5 看護診断について</li> <li>6 アセスメントの書き方</li> <li>7 長期目標・短期目標</li> <li>8 看護計画の立案</li> <li>9 関連図について</li> <li>10 } 事例を用い看護過程を展開</li> <li>11 } 事例を用い看護過程を展開</li> <li>12 } 事例を用い看護過程を展開</li> <li>13 } 事例を用い看護過程を展開</li> <li>14 看護介入の実施・データベース・評価</li> <li>15 終講試験</li> </ol>		
教科書及び参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院2025.</li> <li>2. 永田明、石川みよ監修：看護がみえるvol.4 看護過程の展開 第1版 メディックメディア2021.</li> <li>3. T.ヘザー・ハードマン（編集）、上鶴 重美（編集） NANDA-I看護診断 定義と分類 2024-2026. 第13版 医学書院2025.</li> <li>4. マーシヨリー ゴードン著、江川 隆子（翻）：ゴードン博士の看護診断アセスメント指針—よくわかる機能的健康パターン. 照林社.2023.</li> </ol>		
成績評価の方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業三分の二で成績評価の対象とする。</li> <li>2. 出席評価・授業態度</li> <li>3. 筆記試験</li> <li>4. 課題提出物</li> <li>5. グループワーク・個人ワークの取り組み度</li> </ol>		
受講者へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 准看護師教育において学習した内容を含みます。既習内容を復習してください。</li> <li>2. 復習した上で、初回、具体的にどのようなことを理解しているのか、どのようなことに不安を感じているのか、発表してもらいます。</li> <li>3. 看護過程は、あらゆる対象となる人々がその人らしく生きることを支援するための看護を具体的に実践するための方法論の1つです。</li> <li>4. 授業では、ペアシンキングやグループワークを行い、発表してもらい形態とします。学年全員が理解できるようチームで取り組む力が必要となります。</li> <li>5. 看護過程がどのようなものか理解して、事例展開をしてもらいます。事例展開では「書き方」にこだわるのではなく、「患者さんの反応に着目し、看護問題を考え、介入する」看護を行うことであることを念頭に実施しましょう。</li> <li>4. 援助論や臨地実習に活用できるよう繰り返し学習し習得してください。</li> <li>5. 課題は計画的に実施し、提出期限は遵守してください。</li> </ol>		
履修上の注意	<p>授業進度により計画内容が変更になります。授業中の全てが評価の対象となります。          なお、臨地実習は、看護過程・看護技術の単位を修得した者に限り履修することができます。</p>		